

Geographical Review of Japan Series B 執筆要領 (2020年8月)

1. 原稿の種類

- 1) 英文原稿の種類は、論説 (Original Article)、総説 (Review Article)、短報 (Research Note)、報告 (Progress Report)、翻訳論文 (Translated Article) および書評 (Book Review) とする。
- 2) 論説は、その長短・形式にかかわらず、オリジナルな調査研究の成果とする。
- 3) 総説は、既存の研究成果の検討、研究史、研究動向、将来への展望などとする。
- 4) 短報は、オリジナルな調査研究に基づく新知見の速報や、新しい視点や手法の提案などとする。
- 5) 報告は、自らの研究の進展や課題を論じ、国際的議論に寄与するものとする。
- 6) 翻訳論文は、地理学評論に掲載された論文を英文翻訳したものとする。
- 7) 書評は、文献の批評・紹介とする。
- 8) 論説・総説・短報・報告・翻訳論文は、複数の読者による読結果に基づいて、編集委員会が掲載の可否を決定する。編集委員が読者を兼ねることもある。読読の手順については別に定める。
- 9) 書評は、編集委員会が掲載の可否を決定する。

2. 原稿の作成と提出

2.1. 原稿の作成

- 1) 本文などは A4 判白紙片面を縦に用いて天地左右に余白と行間の余裕を十分に取り、20~25 行程度で作成する。
- 2) 図表などを含めた刷上がりページ数 (1 ページ当たりの印刷字数は最大で約 4,500 字) は、論説・総説・翻訳論文は 24 ページ (約 12,000 語) 以内、短報・報告は 18 ページ (約 9,000 語) 以内、書評は 2 ページ (約 1,300 語) 以内とする。
- 3) 論説・総説・短報・報告・翻訳論文には摘要およびキーワードを付ける。
- 4) 論説・総説・短報・報告・翻訳論文の原稿は、表題・目次、摘要、本文、謝辞、注、文献、表、図、図表キャプションの順にまとめ、摘要から文献までは通しページを付ける。
- 5) 本文の原稿の右の余白に図表の位置を示す。
- 6) この他、必要に応じて付録 (Supplementary files) をつけることができるが、容量については編集委員会の指示に従うこと。

2.2. 原稿の提出

- 1) 原稿は、原稿送付状 (名簿およびホームページに掲載) を添えて、原則として電子媒体で提出する。原稿の電子ファイル (原則として PDF ファイル) は編集委員会宛に電子メールで送付する。本文、図表・写真などは、一つの PDF ファイルにまとめて提出する。
- 2) ファイルサイズには制限を設けないが、現行の標準的なパーソナルコンピュータで速やかに印刷可能な程度のサイズにする。大容量ファイルとなる場合は、事前に編集委員会に相談する。
- 3) ファイルが大きく電子メールでの提出に支障がある場合は、ファイル圧縮やファイル受け渡しサービスを利用してよい。やむをえない場合は、ファイルを磁気メディア (CD-ROM または DVD) に保存して、郵送したものも受け付ける。

2.3. 原稿送付状

- 1) 日本人などの著者名のローマ字表記では、OKUNO Takashi のように姓を先とし、姓はすべて大文字で記す。
- 2) 著者が大学院生の場合の所属は、Graduate student, ~Univ. のように記す。

2.4 転載許可および著作権

投稿に際して、他の文献等から図・表、写真などの転載を行う場合、著作権に関する問題は著者の責任において、できれば投稿前に、遅くとも再投稿時までには解決しておく。そして、転載許可が得られた際には、転載許可書のコピー（電子媒体でも可）を速やかに本会事務局およびGeographical Review of Japan Series B編集専門委員会に提出することとする。Geographical Review of Japan Series Bに掲載された論文に起因して、第三者の著作権を侵害することとなり係争等が発生した場合、著者が責任を負って対処するものとし、本会は一切関与しない。

2.5. 原稿提出先

公益社団法人 日本地理学会 Geographical Review of Japan Series B 編集専門委員会

電子メールの場合：office@aig.or.jp

郵送の場合：〒113-0032 東京都文京区弥生 2-4-16 学会センタービル内

3. 英文表記

- 1) 英文表記（綴りなど）は原則としてアメリカ式とする。ただし、著者の経歴や対象地域などによってはイギリス式でもよい。
- 2) 原稿の段階では行末で単語を分割しない。また、行末を右揃えにする必要はない。
- 3) e.g., i.e., etc., et al.などはイタリックにはしない。
- 4) 日本語・中国語・ロシア語などはローマ字（ラテン文字）で表記する。日本語のローマ字表記はヘボン式とし、特別な事情がない限り長音記号は用いない。

4. **表題** ヘッドライン方式（前置詞などを除いて各語の最初の1文字のみ大文字）、ボールド体指定、左詰めとする。

5. 摘要・キーワード

- 1) 摘要は250語以内、左詰め追込みとし、改行しない。
- 2) キーワードは5個程度、左詰め追込みとし、固有名詞などを除いてすべて小文字とする。

6. 本文

- 1) 章タイトルは2行取りとし、表題に準ずる。
- 2) 節タイトルは前節と1行あけて、センテンス方式（固有名詞などを除いて最初の1文字のみ大文字）、ボールド体指定、左詰めとする。
- 3) パラグラフの最初は2字下げとする。節より下のレベルの見出しはなるべく避けるが、必要な場合にはパラグラフの冒頭にセンテンス方式、ボールド体指定で記し、文章を追込みで続ける。
- 4) 注の表示には括弧を付けずに数字のみを当該箇所の単語の末尾またはコンマ・ピリオドの後（イギリス式では前）の右肩に記す。

7. **謝辞** 謝辞（Acknowledgements）の文章の最初は2字下げとし、改行しない。

8. **注** 注（Notes）は、本文の記述を簡潔にするために、本文の内容に密接に関連してそれを補足する必要がある場合に限って用いる。本文中の当該箇所の右肩に通し番号を付し、本文（謝辞）の後にまとめて、番号を付して注の内容を記す。

9. 文献

- 1) 文献表では著者の姓のアルファベット順に並べ、地理学評論原稿執筆要領の欧語文献の例に準拠して表記する。
- 2) 英語以外の文献名・雑誌名は、検索可能な公式英訳がある場合には英訳のみとする。公式英訳がない場合には原語（たとえば日本語のローマ字表記）のみとするが、英訳を原語の後に括弧書きで付してもよい。
- 3) 紛らわしい雑誌名には、発行地、発行機関、または原語タイトルなどを括弧書きで付す。

4) 英語以外の文献には、たとえば日本語のみの文献は (J) , 英文要旨付き日本語文献は (JE) のように、末尾に略号を付す。

5) 本文などでの文献引用は、地理学評論原稿執筆要領に準拠する。

10. 図・表

1) Figure 1., Table 1. のように通し番号を付ける。

2) 図はモノクロ/カラーとも掲載を可とする。

3) 表の罫線は、原則として横罫線のみとする。

4) このほか、図・表の作成については、地理学評論原稿執筆要領に準拠する。

11. その他

1) 翻訳論文 (Translated Article) の取り扱いは以下の通りとする。

a) タイトルは、元の論文の英文表記の後に「 (English Translation) 」を加える。

b) 翻訳にあたり、著者名、論文構成、データ、結論には変更を加えない。

c) 英文論文としての説明性を高めるための必要最小限の加筆や文献追加は可能とする。

d) 元の論文からの変更点については、文末に補遺として明記する。

e) 直訳は避け、英文として論理性を高めた表現を心がける。

2) 報告 (Progress Report) の取り扱いは以下の通りとする。

a) データのオリジナリティや総合的なレビューは求めない。

b) 自らの研究の進展や課題を考察することによる国際的発信力の向上を評価する。